

2025年11月20日

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

<https://www.savechildren.or.jp/>

## 【セーブ・ザ・チルドレンとブルガリ 財団】

### 共鳴、行動、実現— 取り組みが形となる場所

子ども支援専門の国際 NGO 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(理事長:井田純一郎、本部:東京都千代田区)は、2009 年から 16 年近くにわたり、ブルガリ 財団(ブルガリ 副 CEO:ラウラ・ブルデーゼ)と世界中のすべての子どもと若者にとって、未来をより良い場所にするという共通のビジョンを共有してきました。



(左より)慶應義塾大学名誉教授 田村次朗氏、ブルガリ 副 CEO ラウラ・ブルデーゼ氏、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 専務理事・事務局長 高井明子

セーブ・ザ・チルドレンとブルガリ - 社会を変えて行こうとする力とラグジュアリーの世界との深い絆は単なるパートナーシップの枠を超え、傾聴と変革を重ねながら、夢を現実へと形づくってきた歩みです。

セーブ・ザ・チルドレンは、ブルガリとの歩みの中で、世界 39 ヶ国で 140 以上のプロジェクトをともに展開し、240 万人以上の子どもたちを支援してきました。また、ブルガリの 5 つのシルバージュエリーコレクションについて、ブルガリ 財団から 1 点につき 95 ユーロがセーブ・ザ・チルドレンに寄付され、これまでに寄付額は累計で 1 億 2,000 万ドル以上に達します。

このパートナーシップは今日、ラグジュアリー業界における唯一無二なモデルとなっており、ビジネスの成功が社会のために価値を生み出すことができる、同時にそうすべきであるという揺るぎなき例となっています。長年にわたるこの取り組みは民間セクターと非営利セクターとの間の提携であり、ビジネスを行うことと社会貢献を行うことが別々の道ではなく、共に前進できることの証ともなっています。

そして今、私たちはこの物語を未来に繋ぐため、若い世代に共有したいと考えています。これまでの道のりをただ振り返るのではなく、新たな可能性を切り拓くきっかけとして、若い世代の彼らを惹きつけ、刺激するためにマスタークラスのシリーズを開始しました。2024年11月にボストンのハーバードビジネススクールで始まり、2025年9月には東京の慶應義塾大学で、私たちの歩み、価値観、そしてパーパスに基づいたパートナーシップのインパクトを共有しました。



セーブ・ザ・チルドレンは、ブルガリ 財団とのこの連携が、希望に満ちた目で社会に出る次世代の人々によって受け継がれ、さらに発展していくことを願っています。

そして何より最も重要なのは、私たち一人ひとりが、すべての子どもたちが取り残されない未来のために、何ができるかを考えていくことです。セーブ・ザ・チルドレンとブルガリ 財団は、アイデア、才能、そしてそれらが生む美しさの力を信じています。この物語の未来を描くのは、若い世代自身です。だからこそ、私たちはその力を信じています。

### <セーブ・ザ・チルドレン概要>

セーブ・ザ・チルドレンは 100 年以上にわたり、すべての子どもにとって、生きる・育つ・守られる・参加する権利が実現された世界を目指して活動する国際 NGO です。1919 年にイギリスで創設され、現在、世界約 110 ヶ国で緊急・人道支援、保健・栄養、教育などの分野で活動し、年間 4,100 万人以上(2024 年)の子どもたちに支援を届けています。日本では 1986 年にセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが設立され、国内外で活動を展開しています。

### <ブルガリ概要>

LVMH グループの一員であるブルガリは 1884 年にローマの中心で創業しました。長年にわたりブルガリは色石を巧みに操る偉大なハイジュエラーと卓越したものづくりと先見性のあるデザインによって、イタリアを象徴するアイコンとして名声を確立しました。創業より一貫してブランド DNA に息づく先駆者的なビジョンを通じて世界的成功をおさめ、ファインジュエリーや高級腕時計からアクセサリー、香水まで多角的な商品やサービスを提供するグローバルラグジュアリーブランドへと進化し、世界で最も高級なショッピングエリアに進出するブティックやホテルのネットワークを有しています。また企業の社会的および環境的責任へのコミットメントを通じて持続可能な未来を実現するために現在に革新を起こすこと、そして自然環境と地域社会に貢献することに積極的に取り組んでいます。

本件に対する報道関係の方のお問い合わせ

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 広報

TEL: 03-6859-0355 / E-mail: japan.press@savethechildren.org